

## 加茂信用金庫と新潟経営大学 包括連携協定締結



平成29年5月15日に新潟経営大学と加茂信用金庫は、地域活性化に向けた包括連携協定を締結しました。特殊講義「地域と観光」は、本連携にもとづく地域貢献活動の一環として実現したものです。

豊富な経験と実績を持つ特別客員教授と観光経営学部の実務家出身教授陣がリレー形式で講義します。

### 受講のお申込み・お問い合わせは

新潟経営大学 総務係まで  
お電話 または 電子メール でお申し込みください

電話 **0256-53-3000**



電子メール **koza@duck.niigataum.ac.jp**

<http://www.niigataum.ac.jp/chiikikanko2017/>

※メールにてお申し込みの際は、

- ①講座名 ②受講者氏名 ③電話番号 ④お住まいの市町村 を明記願います。

本講座は、新潟県教育委員会が主催する いいきき県民カレッジ登録講座に登録されています。

マークのついた講座を受講すると、「いいきき県民カレッジ」の単位に認定されます。関心のある講座を選んで受講できますが、連続して受講いただければより理解が深まります。

受講料：無 料

定 員：各回48名 (講座には、新潟経営大学観光経営学部生が通常授業として同席します)  
(開催日によって変わる場合がありますのでご注意ください。)

### アクセス

会場

新潟経営大学キャンパス

〒959-1321 新潟県加茂市希望ヶ丘 2909-2

◎開講日はJR加茂駅よりスクールバスを運行します。

JR 加茂駅東口より 8分  
スクールバス 8分  
徒歩 20分  
 新潟経営大学

◎車をご利用の方は、国道403号線よりお越しください。

## 講義を先取り

地方に行くと、観光のスタイルが激変していることがわかる。山村の小さな農家の民泊に、全国各地から人が来ていたり、郊外の民家を改装したレストランに多数の来客があったり、漁村に修学旅行生が来ていたり.....。

これまで観光地でもなかったところに、人がやってきている。あきらかに観光客の流れが変化をしている。

農水省の統計では、農家民宿の数は、2005年の1,492軒から2010年には2,006軒に増加。宿泊者数は2009年848万人になっているという。

一方、観光客で海外から日本に訪れる外国人客が増えている。2000年に476万人だったものが、2015年は1974万人にもなっている。しかも団体客から、7割以上が個人客となっているという。

特に注目されるのは、ゲストハウス。都内では稼働率90パーセント。民家、倉庫、料亭など、さまざまな古い建物がリノベーションされて使われている。食、イベントを連携させて、地域全体で人を呼ぶ形になっていて、全国に広がりつつある。専用サイトもできている。

実際、全国を巡っていると、多くの海外客に出会う。

最近増えているのは、地方の直売所への韓国客の増加。聞けば、韓国政府も日本と同様に、農産物を加工から販売まで手掛ける6次産業に予算を投入していることから、視察が急増をしているのだという。

こんな中、農村への海外観光客誘致が注目を集めている。というのは、海外の人たちが日本らしい文化、風景、日本食、農村体験、ツーリングなどに興味を持つ人たちが増えているからだ。

一方、国内の人口は激減し始め、高齢化比率が高まっている。同時に、国内の団体客誘致をしてきた温泉街の大型ホテル・宴会場付きといった客は激減している。

今後の動向を考えると、国内での観光客が増えることはない。逆に、海外の、とりわけアジア圏の観光客の来客増加と経済効果が注目されている。それも農村部、これまで観光客が来なかったようなところに注目が集まっている。

今後の日本の観光、地方の経済を考えると、インバウンド(海外客誘致)は不可欠の要素。それも農村部、地方への観光は、大いに可能性があり、実際に海外客を引き寄せている。それは国内観光客にもいえることだ。

観光経営学部 特別客員教授

金丸弘美

新潟経営大学  
Niigata University of Management



いいきき県民カレッジ登録講座 公開講座

平成29年6月25日(日)～7月30日(日)

全6回(土日開講) 13:00～16:10

特殊講義

「地域と観光」

観光経営学部の特別客員教授と実務家出身教授陣のリレー講義

聴講無料

地域のみなさんの受講を募集しています

加茂信用金庫・新潟経営大学

地域貢献連携講座



地域の鼓動が世界の息吹に...

主催  
共催  
後援

新潟経営大学 観光経営学部・地域活性化研究所  
加茂信用金庫  
UX 新潟テレビ21 加茂商工会議所 加茂市  
新潟日報社 三條新聞 越後ジャーナル

マークのついた講義は、新潟県教育委員会が主催する「いきいき県民カレッジ」の講座として登録されています。受講終了時に1単位認定されます。

本講座は、新潟経営大学観光経営学部の1年次配当授業を一般公開して実施します。休日午後のひとときを、現役大学生と机を並べてお過ごしください。

## 最初の一步は末の千里

キックオフ・ミーティング (13:00 ~ 14:30)

### 地域活性化に資する産学官金連携

パネリスト：阿部貴行 加茂信用金庫理事長  
佐藤俊哉 加茂信用金庫支援課長  
イワン・ツェリッシュェフ 観光経営学部長・教授  
織原正明 UX21 エグゼクティブ・プロデューサー  
ファシリテータ：堀 峰生 経営情報学部教授・地域活性化研究所所長

6/25 (日)



### 観光立国の実現に向けて

地域に人を集めるグローバル時代のおもてなし

観光経営学部 教授

小畑 博正



(14:40 ~ 16:10)

これまでの経験を踏まえて、「観光とは何か?」についてお話ししたいと思います。また、観光条件の不利な地域の事例として「スペインバスク州サン・セバスチャンの美食世界一戦略」を紹介し、自地域に置き換えながら、地域が今何をすべきかを提案する内容にしたいと思います。

## 食の伝道師が斬る!



特別客員教授  
金丸 弘美

7/1 (土)

1 限目 (13:00 ~ 14:00)  
今、足元から急変する観光の流れ  
~町の資源をつなぐことが人を集めるスポットに~

2 限目 (14:10 ~ 15:10)  
タカラは足元にあり!  
~地方観光に大きな流れがおきている~

3 限目 (15:20 ~ 16:10)  
フリー・トーク

山村の小さな農家の民泊に、全国各地から人が訪れたり、郊外の民家を改装したレストランに多数の来客があったり、修学旅行生が漁村を訪れたり、あきらかに観光客の流れが変化しています。

概して、食、イベントを連携させて、地域全体で人を呼ぶ形になっており、この動きは全国に広がりつつあります。専用サイトもできています。

こんな中、農村への海外観光客誘致が注目を集めています。というのは、海外の人たちが日本らしい文化、風景、日本食、農村体験、ツーリングなどに興味を持つ人たちが増えているからです。

本講義では、食を中心に多様化する観光のニーズについて一緒に考えます。

## まちづくりの先人に学ぶ



特別客員教授  
高野 誠鮮

1 限目 (13:00 ~ 14:00)  
実践! 戦略的まちづくり・むらづくり

2 限目 (14:10 ~ 15:10)  
地域創生のイノベーション  
~オーガニックからジャポニックへ~

3 限目 (15:20 ~ 16:10)  
フリー・トーク

7/16 (日)

実践! 戦略的まちづくり・むらづくり (1限目)

能登半島の小都市「羽咋市」をUFOの町に、地元生産コシヒカリをローマ法王献上米としてブランド米に、深刻な過疎化に窮する限界集落からの脱却など、自らの体験と全国の成功事例と失敗事例を紹介しながら、まちづくり、むらづくりについて考えます。

地域創生のイノベーション (2限目)

自然栽培は、化学肥料や有機肥料、さらに農薬や除草剤も使わない農法です。たしかに、慣行栽培の生産者や専門家から見れば常軌を逸した農法です。しかし、ここでは農業技術の賛否を問うものではありません。視野を世界に向けて、「安全・安心」をグローバル・スタンダードと捉え、将来を見据えた「Think Global, Act Local」の発想で進める農業戦略について考えます。

## 農業王国に一家言あり



観光経営学部 教授  
里村 孝一

7/22 (土)

「三方良し」のツーリズムを目指して

関川村「朝ごはんプロジェクト」、村上・岩船地域における「周遊グリーンツーリズム」の仕掛けなど、宿泊の魅力づくりや農業体験施設の利用者増への取り組みについてお話します。キーワードは、「連携」です。



観光経営学部 准教授  
滝沢 憲一

「にいがたフード・ブランド」を中心とした食の観光資源化について

信濃川下流域は肥沃な土地であることから、にいがたフード・ブランドに指定されている「ルレクチエ」、「越後姫」、「新潟枝豆」の栽培が盛んであります。また、2017年4月に新潟県内の農産物として初めて「くろさき茶豆」が農林水産省の地理的表示保護制度(GI)に登録されました。今こそ、新潟の農産物を観光資源として活用するチャンスであります。本講義では、新潟の農産物の魅力を再確認する時間になりたいと思います。

## 地域振興の源泉は"人"



都市農村交流から見た観光振興について

観光経営学部 教授

出口 高靖



(13:00 ~ 14:00)

平成27年国勢調査の確定値によれば、総人口は、大正9年の調査開始以来、初めて減少に転じて、人口減少問題が現実のものとなりました。既に、国・都道府県・市町村と地方と様々な組織が連携して、地方創生、地域活性化に取り組んでおり、重要戦略として観光振興に取り組んでいます。その観光は地方にとって本当に稼げる普遍的な手段なのだろうか。地方と都市、農村と都市との関係、観光振興の課題を明らかにし、都市農村交流の視点から、先行事例も踏まえて、未来戦略の方向性を紐解きます。

7/8 (土)



まち むら  
都市と地域を元気にする着地型観光  
~高野街道と熊野古道のニューツーリズム事例~

観光経営学部 教授

近藤 政幸



(14:10 ~ 15:10)

訪日旅行市場・都市高齢者人口が急拡大する一方で、地域人口の縮小に直面しています。地域全体でお宝がしをし、これをつないで磨いて「地域ブランド」を誇る、創造的観光マネジメントの取り組みが急がれています。マーケティング(鳥の眼)とマネジメント(虫の眼)の視点をもって地域外から稼ぐ「地域循環型ビジネスモデル」についてお話します。

## 共創社会の夜明け

地域資源からのメッセージが聞こえる  
~妙成寺国宝化プロジェクトをとらえて~

特別客員教授  
高野 誠鮮

数々のまちおこしを成功に導いたスーパー公務員が退職後に取り組む「妙成寺国宝化プロジェクト」を通じた活動を事例紹介します。地域住民が一体となった活動や機運の醸成、省庁との折衝の実際など、歴史的文化資産の国宝化を成すにいたるプロセスを紹介し、地域資源を活用した地域活性化策についてお話します。

7/30 (日)

クロージング

ミニ・パネルディスカッション

観光振興で地域に活力を

~産学官金連携の役割~ (14:40 ~ 16:10)

パネリスト:  
加茂商工会議所会頭  
太田 明(産)  
地域活性化研究所所長  
堀 峰生(金)

観光振興が地域活性化を推進するにあたり、より実践に即した「産学官金連携」のあり方について登壇者各々の立場で議論します。

特別客員教授  
高野 誠鮮(官)

ファシリテーター:  
観光経営学部教授  
小畑 博正(学)